

解答

一

- 問一 ⑨
問二 ア
問三 ③ 日本の家は壁というものがないこと。
⑤ 西洋のクラシック音楽は次から次に生まれては消えてゆくさまざまな音によって埋め尽くされていること。
問四 a イ b エ
問五 イ、カ
問六 人とのあいだに間があれば、異質なもの同士の対立をやわらげ、調和させ、共存させることができるから。
問七 和
問八 日本は生活や文化の中で間を重んじ和を実現するが、西洋は間がなく個人主義や絶え間のない音楽が生まれた。

二

- 問一 抱かれるとすぐに
問二 ① (一) ぜん ② (三) りん
問三 I イ II エ III ア
問四 ③ エ ④ ア ⑤ ウ
問五 大きくなったにもかかわらず従姉に背負われようとしたことを姉に止められ、自分の甘えを知ることになり恥ずかしいという思い。
問六 妹を気にかける優しさを持ち、きょうだい愛をたっぷり与えてくれる一方、甘えた気持ちに対してはきびしく、出来ることは自分でやることを教えてくれた尊敬できる存在。
問七 ア、カ
問八 A せんとう B 名案 C 初めて D 誤り E 断る

三

- ① 申し ② ○ ③ ごらんになって ④ めしあがって ⑤ お持ちになって

解説

一

- 問二 空間的な間の説明に絵画が用いられているので、時間的な間の説明をしている第七段落に着目します。日本古来の音曲は長閑であり、音の絶え間では松林を吹く風の音がふとよぎることもあれば、谷川のせせらぎが聞こえてくることもあるという内容から、同じことを言い表している選択肢アが選べます。
問六 十段落目で、間が日本人の生活や文化の中でどのような働きをしているかについて説明しているので、「そのもつとも」から始まる一文の内容を設問の指示に従ってまとめます。

二

- 問五 本文の終わりに述べられている内容に着目します。「おんぶしないで！癖になるから」という姉の言葉によって、自分はもうだいたい大きくなっていて、いつまでも人におんぶしてもらってはならないのだということを自覚し、自分の甘えた気持ちに恥ずかしさを感じたことを説明します。
問六 私が五歳頃、ぐるぐる巻きの帯を取り、風呂敷の中の浴衣を着せてくれたときに感じた「優しさ」と、水遊びの帰り道に、従姉におんぶしてもらおうとした時にみせた、甘えた気持ちに対する姉の「きびしさ」を指摘しわかりやすくまとめます。